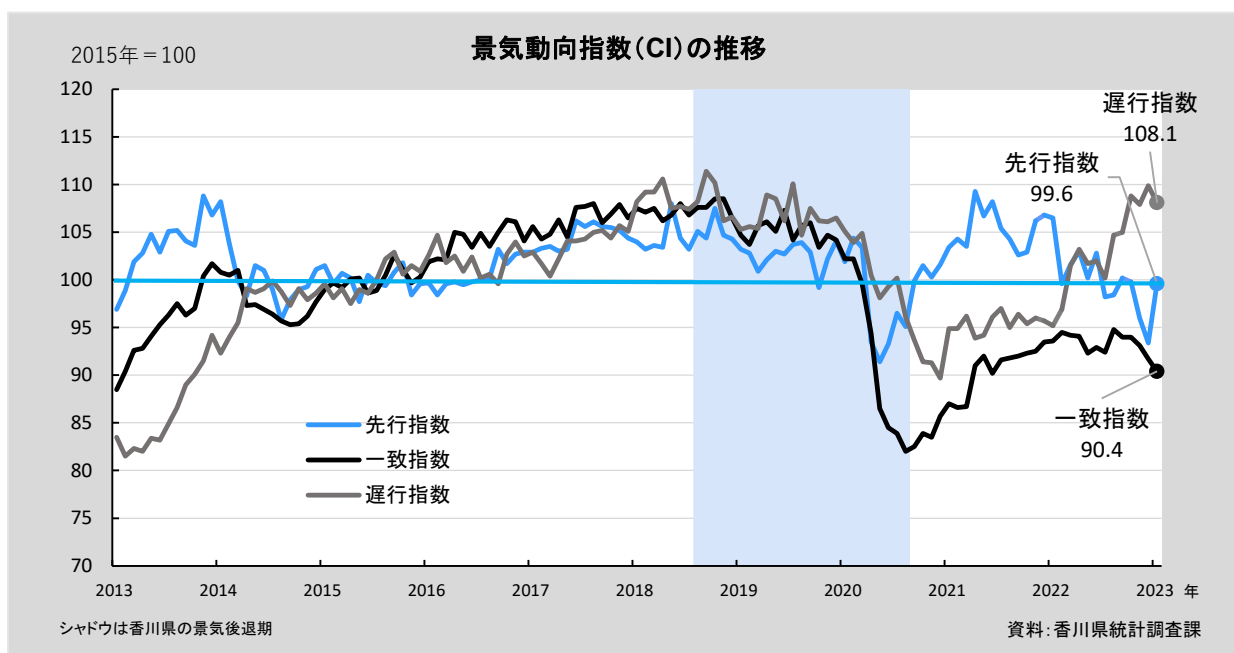


概況	景気は、緩やかに持ち直している。
個人消費	緩やかに持ち直している。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	減少している。
生産活動	弱い動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出は減少、輸入は増加している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

**景気動向指数(かがわCI) 一致指数 3カ月連続下降**



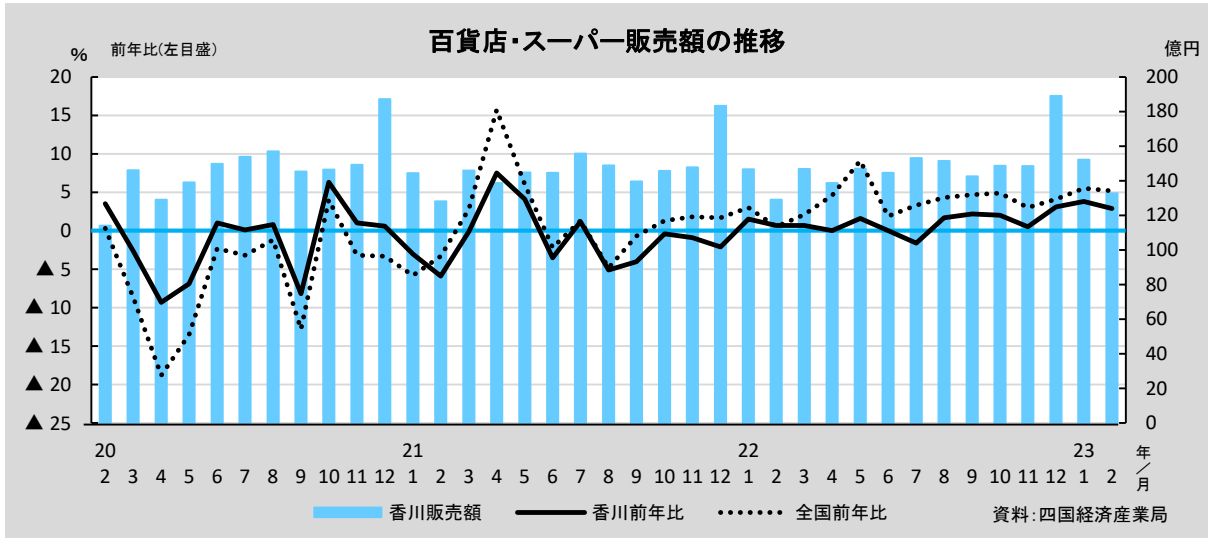
景気の現状をみると、1月のCI一致指数は90.4（前月比▲1.3ポイント）と3カ月連続で下降。CI先行指数は99.6（同+6.2ポイント）と4カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は108.1（同▲1.8ポイント）と2カ月ぶりに下降。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、鉱工業出荷指数、所定外労働時間指数等が下降に寄与したことにより、前月から1.3ポイントの下降となった。

	先行系列	寄与度	一致系列	寄与度	遅行系列	寄与度
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.35	1 雇用保険受給者実人員	0.23	1 常用雇用指数	▲ 0.08
	2 乗用車新車登録台数	1.19	2 有効求人倍率	▲ 0.50	2 有効求職者数	▲ 0.11
	3 鉱工業在庫率指数	1.85	3 所定外労働時間指数	▲ 0.86	3 消費者物価指数	▲ 0.50
	4 生産財生産指数	0.39	4 鉱工業生産指数	▲ 0.09	4 家計消費支出	▲ 0.05
	5 新設住宅着工戸数	2.12	5 鉱工業出荷指数	▲ 1.04	5 鉱工業在庫指数	1.32
	6 金融機関貸出残高	0.24	6 建築着工床面積	0.83	6 法人事業税調定額	▲ 0.91
	7 消費者態度指数	0.26	7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.12	7 第3次産業活動指数	▲ 1.23

●百貨店・スーパー販売額

7カ月連続増加 ↑

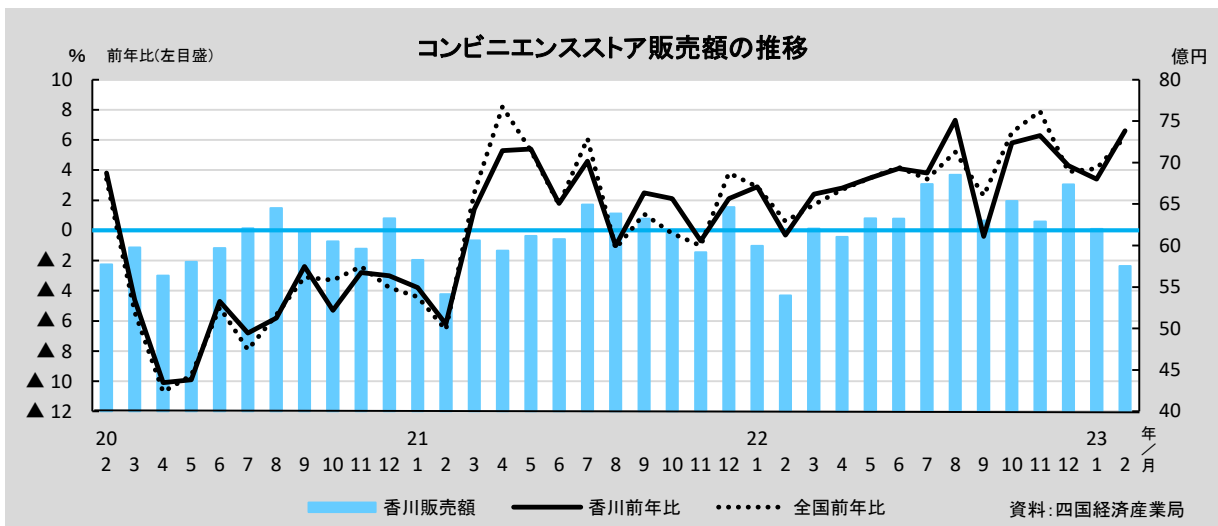


2023/2月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(万円)	85,162	53,594	995,782	1,084	4,755	60,466	126,743	405	1,327,991
前年同月比(%)	20.8	29.4	▲0.9	▲23.3	▲6.4	180.2	▲12.9	51.7	2.9

2月の百貨店・スーパー全店(84店)の販売額は132.8億円で、前年同月比+2.9%と7カ月連続で増加した。「衣料品」は新生活需要で同+20.8%、「身の回り品」は旅行用品需要で同+29.4%と好調だった。一方、「飲食料品」は物価高による節約志向で生鮮食品が伸び悩み、同▲0.9%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

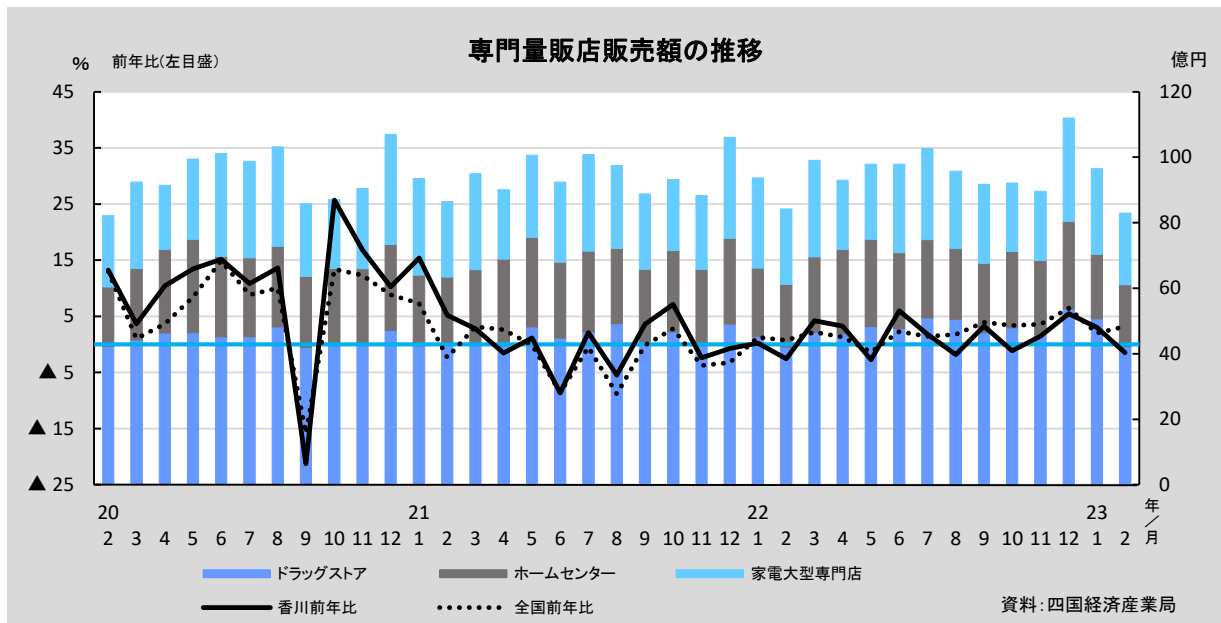
5カ月連続増加 ↑



2月のコンビニエンスストア全店(408店)の販売額は57.5億円で、前年同月比+6.6%となった。入店客数の増加、販売促進効果、商品価格の上昇などで販売額が増加したほか、カウンターコーヒーやフライヤー商品などが好調で、5カ月連続の増加となった。

●専門量販店販売額

4 カ月ぶり減少 ↓

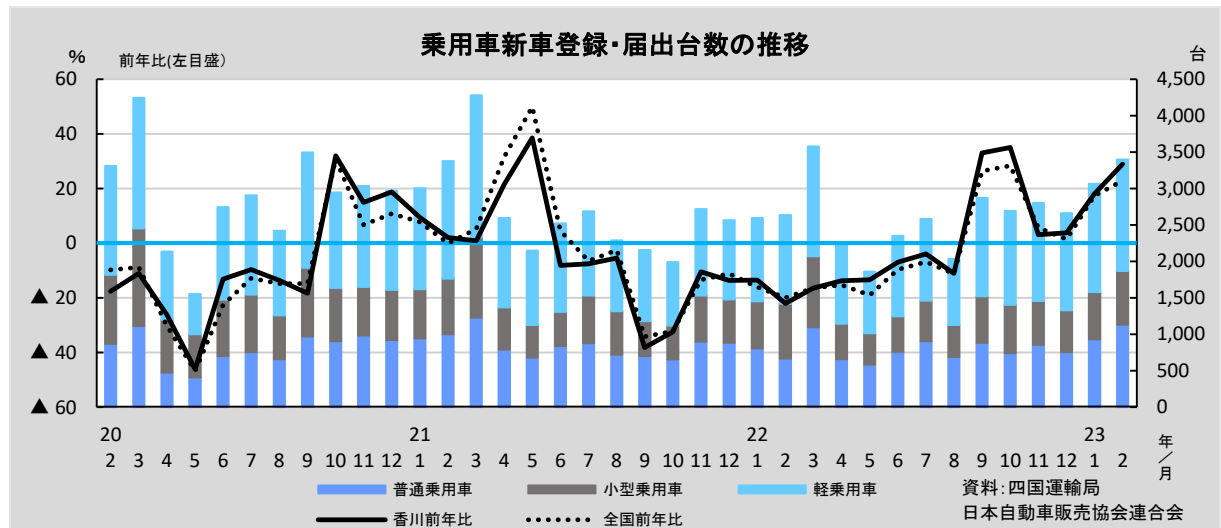


2月の専門量販店全店（212店）の販売額は83.0億円で、前年同月比▲1.5%と4カ月ぶりに減少した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（29店）は、気温高での季節家電の不振やテレビが低調なことから、販売額は21.9億円で前年同月比▲4.9%、**ドラッグストア**（137店）は、冷凍食品などの食品や調剤医薬品が堅調に推移し、販売額は42.1億円で同+0.1%となった。**ホームセンター**（46店）は、入店客数の減少や、節約志向で日用消耗品の動きが悪く、販売額18.9億円で同▲0.9%となった。

●乗用車新車販売台数

6 カ月連続増加 ↑

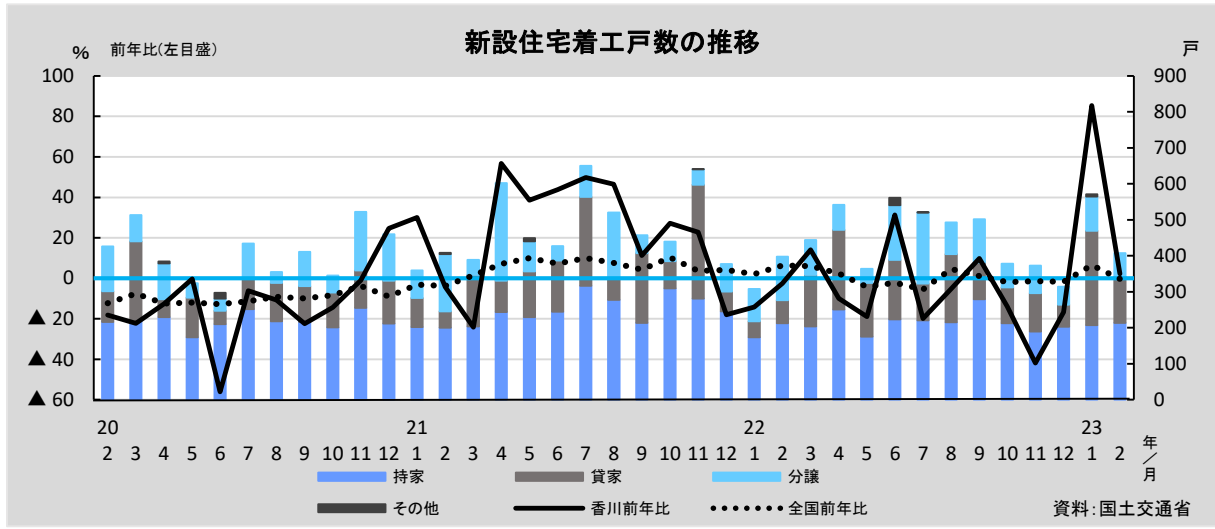


2月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,398台で、半導体不足や部品調達難が深刻だった前年からの反動増で、前年同月比+29.0%と6カ月連続で増加した。

車種別にみると、普通乗用車で前年同月比+69.7%、小型乗用車で同▲1.5%、軽乗用車で同+25.5%となった。

住宅投資 低調に推移している

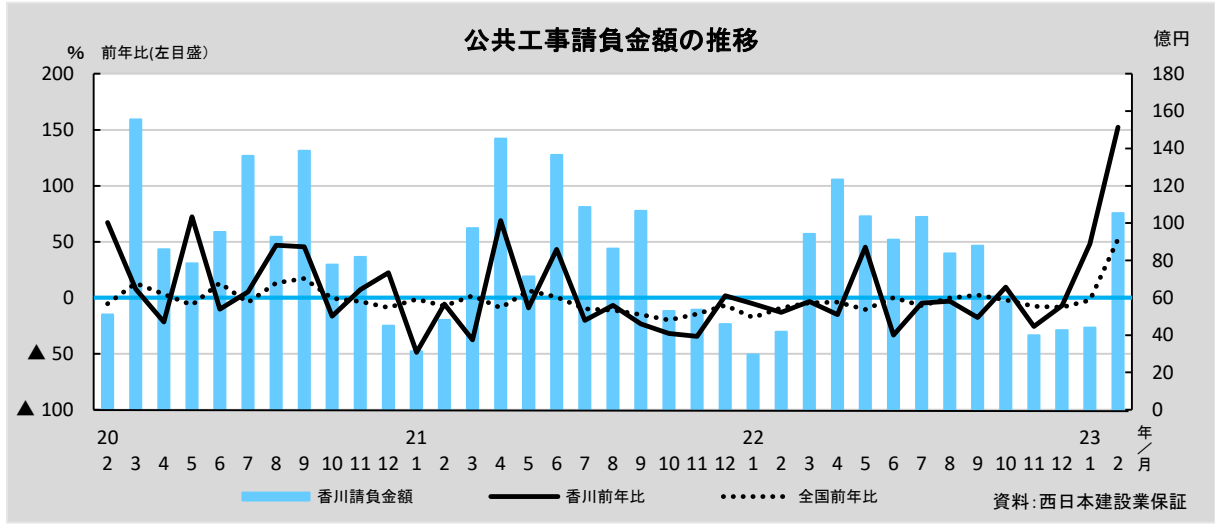
●新設住宅着工 2カ月連続増加 ↑



2月の新設住宅着工戸数は407戸で、前年同月比+2.3%と2カ月連続で増加した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比+0.5%、**貸家**で同+100.0%、**分譲住宅**で同▲46.3%となった。

公共投資 減少している

●公共工事請負金額 2カ月連続増加 ↑



2月の公共工事請負金額は105.5億円で、前年同月比+152.4%と2カ月連続で増加した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比301倍、**県**で同+241.3%、**市町**で同+13.0%となった。

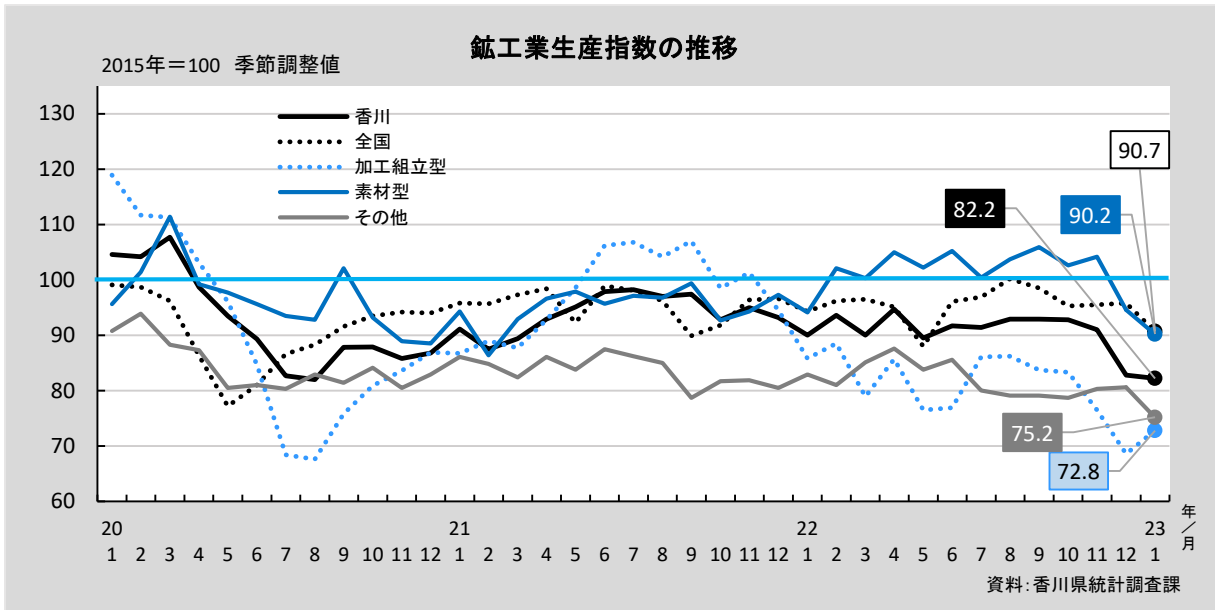
2022.4月～2023.2月の累計では前年同期比3.6%減少している。

生産活動

弱い動きとなっている

● 鉱工業生産指数

4 カ月連続低下 ↓



1月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は82.2（前月82.8）となり、4カ月連続で低下した。

業種別では、その他の食料品工業（食用油、肉・肉製品など）は前月比▲10.5%、素材型の化学・石油石炭製品工業（医薬品など）は同▲7.2%と低下した。

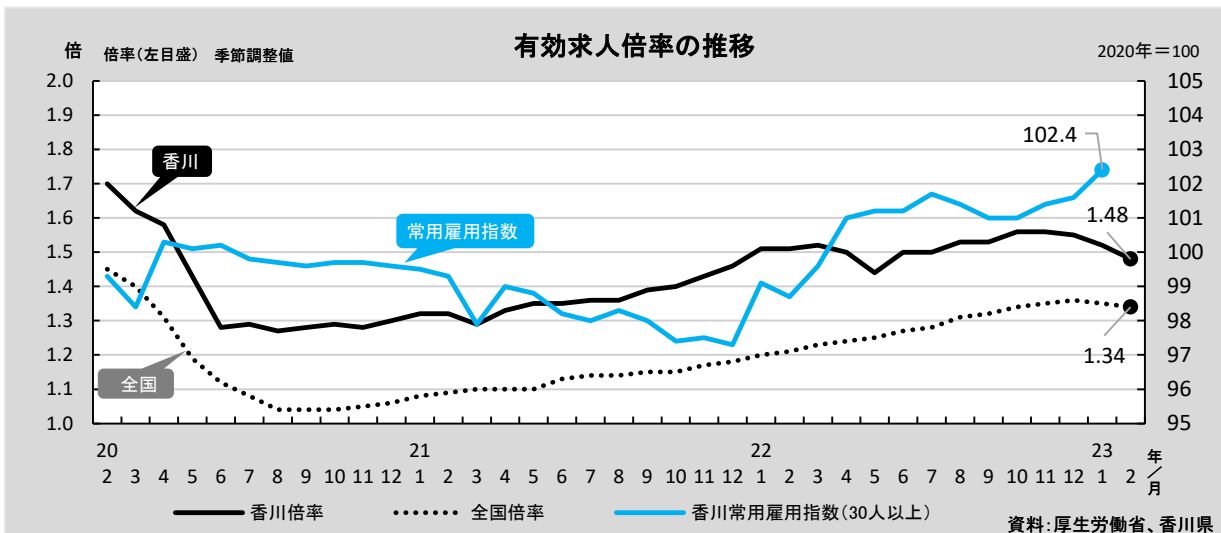
一方、加工組立型の電気機械工業（発光ダイオード、高圧遮断器など）は同+19.6%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

● 有効求人倍率

3 カ月連続低下 ↓



2月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.48倍（全国15位）と前月より0.04ポイント低下した。

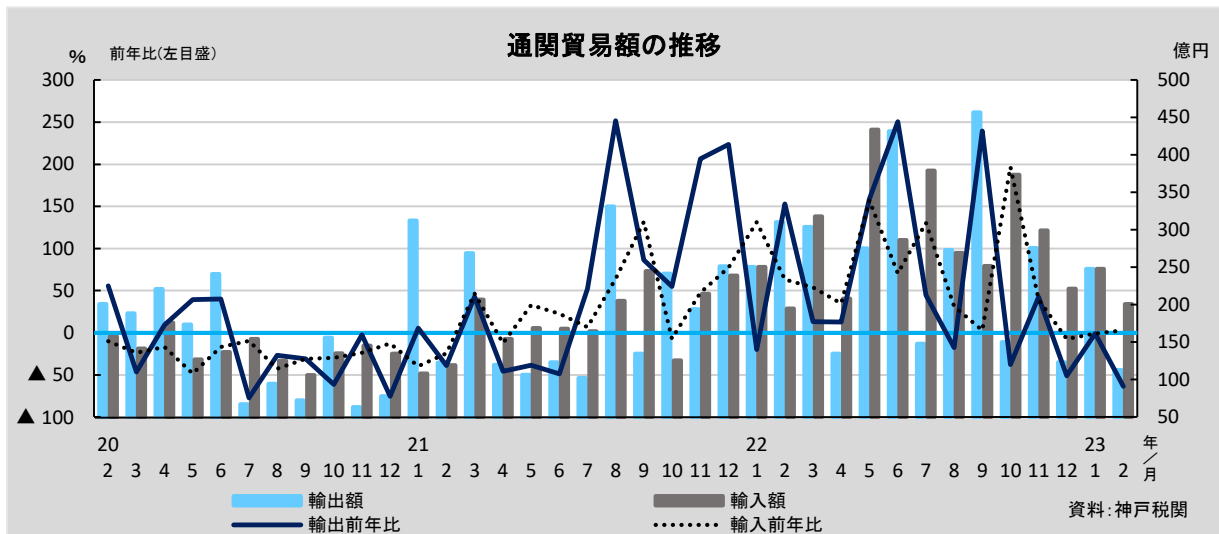
新規求人（原数値：前年同月比）は、建設業、学術研究・専門・技術サービス業、卸売・小売業、農・林・漁業等で減少し、全体で▲3.8%と2カ月連続で減少した。

1月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.4となり、前年同月比は11カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.43
事務的職業	0.84
販売の職業	2.60
サービスの職業	3.41
生産工程の職業	2.55
輸送・機械運転の職業	2.27
建設・採掘の職業	5.88
運搬・清掃・包装等の職業	1.23

## 貿易

輸出は減少、輸入は増加している



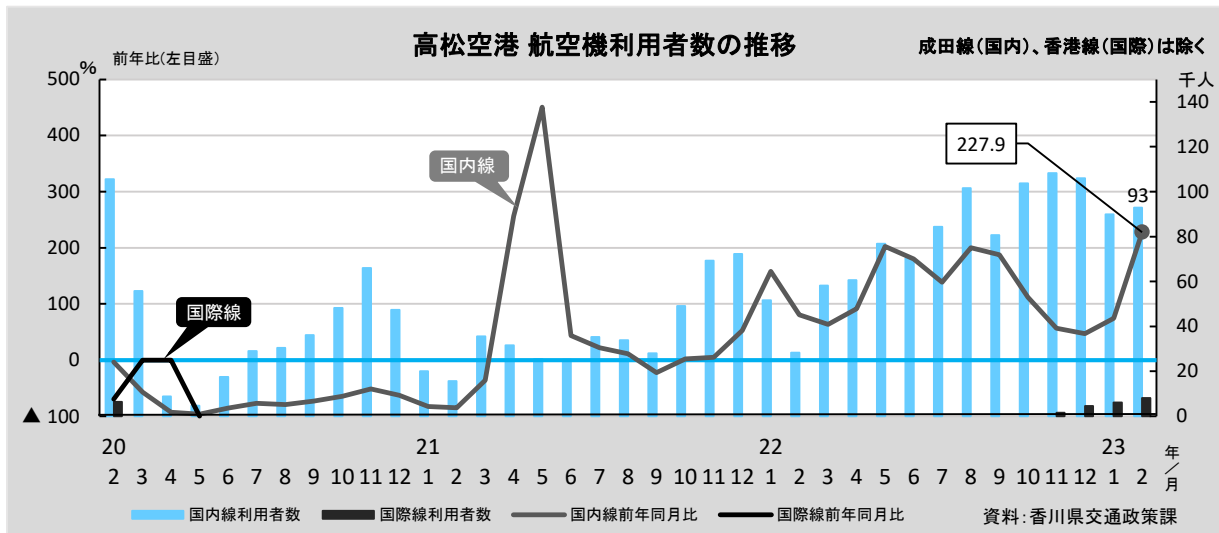
2月の輸出額は前年同月比▲63.6%の112.8億円、輸入額は同+3.0%の200.6億円となり、差し引き87.8億円の入超となっている。

輸出は、前年同月121億円だった貨物船輸出額がゼロとなった。輸入は、金属製品輸入額が同3.8倍の21億円となった。

## 交通

国内線は17カ月連続増加、国際線はソウル線・台北線が順調

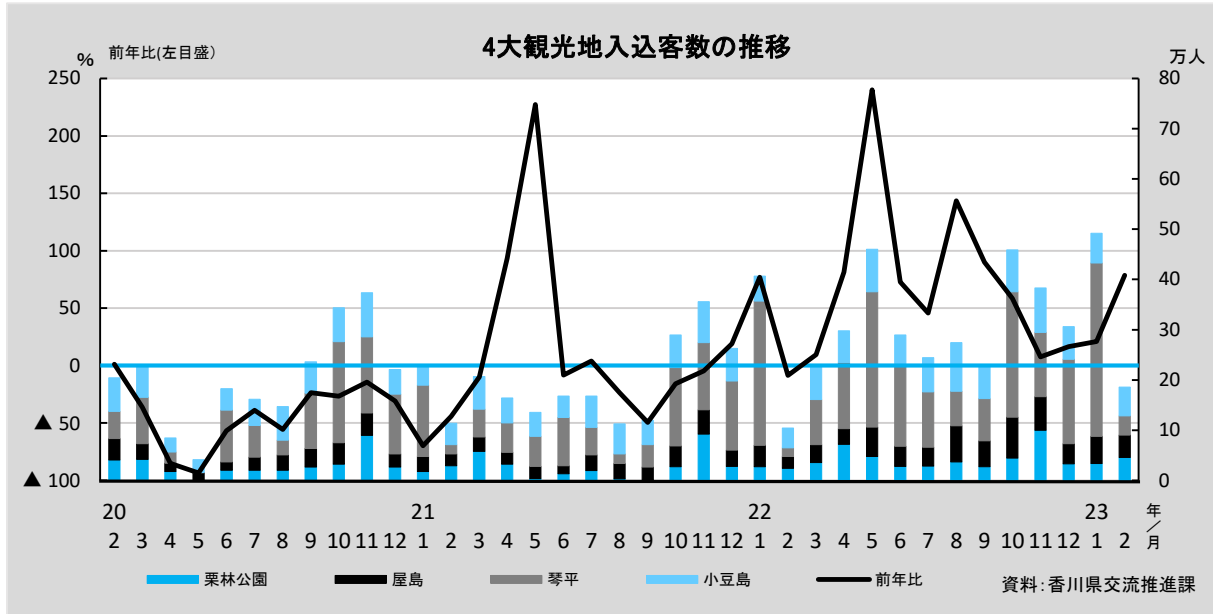
### ●高松空港旅客輸送実績



2月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が92,930人(前年同月比+227.9%)となり、17カ月連続で増加した。羽田線は85,845人(同+215.7%)、那覇線は7,085人(同+519.3%)となった。

国際線(ソウル・台北線)は、ソウル線4,663人、台北線3,401人となった。1月末までの平均搭乗率は、ソウル線が85.5%、台北線が73.9%と順調に伸びているため、3月26日からソウル線がデイリー運航となった。

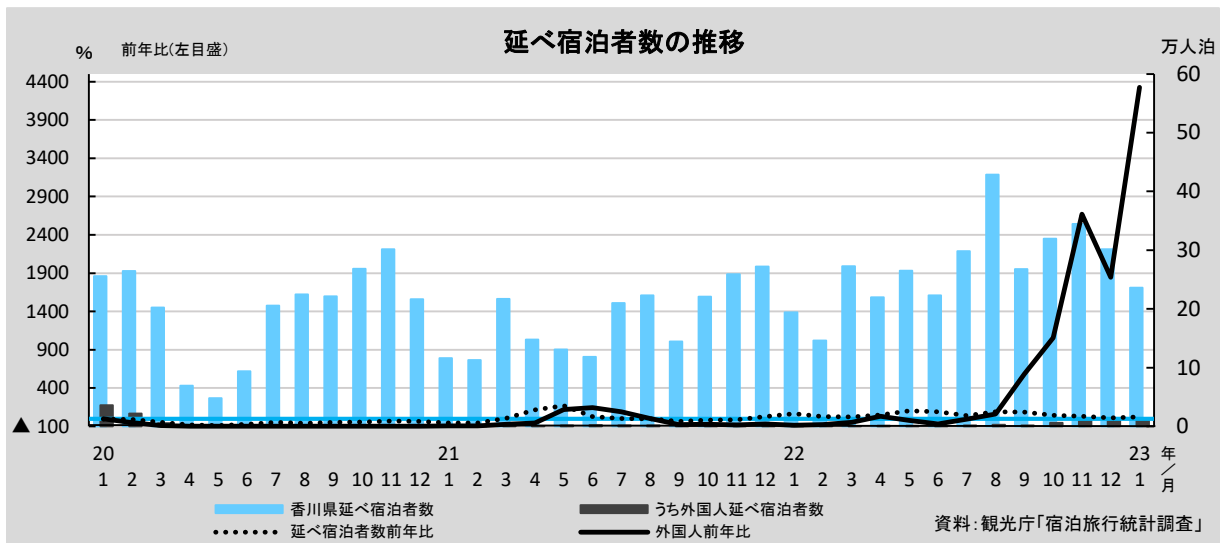
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園	屋島	琴平	小豆島	合計	
2月(人)	前年同月比	46,022	44,434	38,000	57,337	185,793	<b>78.7%</b>
1~2月累計(人)		79,594	98,419	383,000	116,721	677,734	<b>32.7%</b>

2月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+78.7%と12カ月連続で増加した。全国旅行支援延長や国際線運航再開などの効果で、栗林公園は前年同月比+90.7%、屋島は同+89.1%、琴平は同+123.5%、小豆島は同+45.7%と全てが前年を上回った。

●延べ宿泊者数



1月の延べ宿泊者数は235,900人で、前年同月比+21.5%と14カ月連続で増加した。コロナ禍前の2019年同月比では▲13.8%となった。

うち、外国人延べ宿泊者数は11,060人となり、前年同月比+4324.0%と6カ月連続で増加した。2019年同月比では▲69.1%となった。